

■東浦町まちづくりワークショップ全6回まとめ① 【第1回 10/21(土) 25名参加、第2回 11/5(日) 16名参加、第3回 11/18(土) 17名参加】

第1回「東浦町の未来ビジョンを語ろう！」 20年後の未来の東浦町がどのような町であってほしいか考え、そのために、住民・事業者(団体)・行政がどのように関わられるか、キャッチコピーとともに考えました。			第2回「東浦町のまちを語ろう！」 「住宅系」「商業系」「工業系」「農業・樹林地系」「文化」の分野について、東浦町が将来どのような町になってほしいか、「保全」、「改善」、「開発」などの視点で意見を出し合いました。			第3回「東浦町のしごとを語ろう！」 「農業」「商業」「工業」「その他(観光業)」の各分野について、将来どのようにしたら各産業や東浦町が盛り上がるか、様々な視点で意見を出し合いました。		
キャッチコピー	20年後の未来の東浦町	住民・事業者(団体)・行政がどのように関わられるか	分野	将来どうなってほしいか	住民・事業者(団体)・行政がどのように関わられるか	分野	現状はどうなっているか	将来どうなってほしいか
日本をリードする東浦モデル	<b>特に関心の高い意見</b> ○ 学校と地域が開かれ、つながるまち ○ 子どもが安心して遊べる場所づくり ○ あたたかい気持ちで子どもを育てることができるまち <b>その他の意見</b> ○ 高齢者と若者が交流できるまち ○ 優良企業のあるまち ○ 商工農住宅のバランスがとれたまち ○ 町内での仕事がある	<b>住民</b> ▶ ボランティア活動をするスタート ▶ 学校行事への積極的参加 <b>事業者</b> ▶ 採用者を増やす <b>行政</b> ▶ 柔軟な考え <b>その他</b> ▶ 住民・事業者・行政と分けずに	住宅	○ 道路の拡張、再開発 ○ 空き家の入住補助 ○ 住宅補助 若者限定 ○ 住民を活かせる機会づくり ○ 古い町並みを保全 ○ 保存地区を区分して人を呼び ○ 歴史観光都市をめざす ○ 寺院・城跡を残す ○ NPO ボランティアの活躍	<b>行政</b> ▶ 国県と交渉 ▶ 計画の見直し及び促進 ▶ ボランティア、スクールガードの活用 ▶ 補助金制度 ▶ 専門部隊・部署の創設 <b>住民・行政</b> ▶ 計画策定への参加 <b>住民・事業者・行政</b> ▶ 景観条例の制定・遵守	農業	○ 農地が余っている ○ 後継者が少ない ○ ぶどう農園が多い ○ ブランドが伝わっていない ○ 農家の総合直売所がげんきの郷しかない ○ ブドウ以外の特産がない ○ 減っていくブドウ畑 ○ 農業後継者の減少	▶ 農業のエンタメ化 ▶ 水辺空間の活用 ▶ 海外労働力と高齢者の活躍 ▶ AIの導入 ▶ チャレンジ農家支援(新種) ▶ 情報発信する、農家アイドル ▶ 企業、県農業試験場(JA)と連携する ▶ 特産物をさらに作る、東浦のブランド化 ▶ 農業人口を増やす施策 ▶ 小・中・高で農業体験
発想の転換 地の利を活かした今あるもの の活用/起業家の多いまち	<b>特に関心の高い意見</b> ○ 雇用が近隣にあるマチ ○ 外国人観光客が立ち寄ってくれるマチ ○ 伝統と革新 ○ 産業が振興されているまち <b>その他の意見</b> ○ リニアが生かせるマチ ○ 地域交通の充実 ○ 車や家がシェアでき効率的なマチ	<b>住民</b> ▶ 小さなお店にチャレンジ! ▶ 共同出資場所の共同運営 ▶ 総合計画を説明し、住民意見も聞いて仕上げていく <b>事業者</b> ▶ AI技術の研究開発 <b>行政</b> ▶ 個人事業主の支援対策 ▶ 小学生の教育充実 ▶ 産業振興の将来図を20年構想計画として明示する	商業	○ 周辺の施設から流れてくる人を取り込む ○ 知多半島という立地をもっと活用する ○ JR線周辺の商業地を拡大する ○ 商業地を各地区に分ける ○ 町おこしイベントの開催 ○ 公共交通機関の整備 ○ 地元小店舗の活性化 ○ 個性的個人商店の育成	<b>行政</b> ▶ アクセスの整備 ▶ 補助金 <b>事業者</b> ▶ SNSの活用 ▶ イオンと交渉	商業	○ お店が少ない ○ 大型商業施設に商業が一本化されつつある ○ 交通の便がよい ○ 東浦産の土産がない ○ 地域で格差がある ○ イオンしかない ○ アミューズメント施設(ボーリング・スポーツ)がない ○ 働く場所が少ない	▶ 専門職人的な小企業を誘致 ▶ 若者へ 空き家・空き地を活用してもらう ▶ 駅周辺の再開発(飲食店、商店を誘致) ▶ インターネット販売、宅配型ビジネスの発展 ▶ 東浦のブランド化 ▶ 朝市、夜市、マルシェ、ピアガーデン、廃工場レストラン等の開催 ▶ うらら夜間運行
まち 多様化していく人を受け入れる	<b>特に関心の高い意見</b> ○ 多文化を受け入れる地域社会 ○ 多様な価値観が共存 <b>その他の意見</b> ○ 地域コミュニティが前向きで元気なまち ○ 景観を保全していく(荒地・空き家) ○ 自然が多く残るまち	<b>住民</b> ▶ 多文化教育行政に参加 ▶ 外国人コミュニティと日本人コミュニティの隔たりを解消 <b>行政</b> ▶ 国際交流協会設立 ▶ 条例を整える ▶ 外国語の表示(案内など) <b>住民・行政</b> ▶ 外国の方 異文化との交流を促進する ▶ 日本語教育の充実	工業	○ 税優遇など企業が進出しやすい環境整備 ○ 外国人が働きやすい・住みやすい環境整備 ○ 小学生からの独自プログラム ○ 起業などの活性化 ○ 商業振興 ○ 東浦プライド(東浦モデル作り) ○ IC付近のインフラを整備し工場を誘致する ○ 知多半島広域での関連産業促進	<b>行政</b> ▶ 固定資産税の軽減 ▶ 規制解除見直し ▶ 開発公社を作り誘致活動	工業	○ 何の工場かわからない ○ 工場(製造)が少ない(近隣自治体と比較) ○ 労働者不足 ○ トラックの通れる道が少ない ○ 工業専用地の造成 ○ 石浜の工業団地がもったいない ○ 働く場所が少ない	▶ 専門職人的な小企業を誘致 ▶ 福祉ロボット産業 ▶ 若者へ 空き家・空き地を活用してもらう ▶ 工業が来るための整備、幹線道路の整備 ▶ 広告、インターネット情報発信 ▶ 東浦のブランド化 ▶ オリジナル商品 ▶ 地元の就職フェア
グリーン クリーン タウン	<b>特に関心の高い意見</b> ○ 緑あふれる東浦 ○ 子どもも大人も皆きれいな空気で健康に <b>その他の意見</b> ○ 子育ての援助 ○ 住民間の交流がしやすい環境 ○ 歩道が充分にある町 ○ ルールの少ない町	<b>住民</b> ▶ 人口×10本の木が残る町 <b>事業者</b> ▶ 住民や自治会の理解を得られない開発しない <b>その他</b> ▶ 公園充実化をする ▶ 町が山などある程度買って緑が急に減るのを防ぐ	農業・樹林	○ 必要な緑地のみを保全し、他は文化施設用地の転換地とする ○ 荒地化している土地を貸し畑等のイベントで利用(夏限定でも) ○ 農業者・農業後継者育成 ○ 野菜ソムリエなどの体験 ○ 児童・生徒に向けての農業アピール ○ 公園の整備を強化 ○ 景観の促進、観光名所・名産品のPR ○ 空農地をストックし町が斡旋する ○ 農業拠点づくり、農業のエンタメ化	<b>行政</b> ▶ 利用者数の調査などによる保全すべき緑地の取捨選択 ▶ セミナーやイベント開催 ▶ 土地修復 <b>住民</b> ▶ 魅力発信 ▶ ボランティアの呼びかけ ▶ 農業センター設立 ▶ 農家民泊で収入増 ▶ 農業との距離が近くなる催事 ▶ 自然・環境保全活動への参加	その他(観光業など)	○ 大きな病院が無い ○ 近隣自治体より経済循環率が低い ○ 有名な観光地が無い ○ 大学、高校少ない ○ 町の情報発信力がない ○ 東西のアクセスが悪い ○ 若い人が外に出ていってしまう ○ 空き地が多い ○ 起業をする人が少ない	▶ 高校・大学・専門学校を作り、若者を増やす ▶ 総合イベント会場を作り海外からも人を集める ▶ 行政の情報発信 ▶ 於大と桜の融合、観光地の整備化(公園など民間委託) ▶ 町が総合病院をつくる ▶ 空き家を居場所や居酒屋、商店などへ利用 ▶ 新しいアイデアで起業応援

■東浦町まちづくりワークショップ全6回まとめ② 【第4回 12/9(土)30名参加、第5回 12/23(土)25名参加、第6回平成30年1/21(日)開催予定】

第4回「東浦町の子どもの育みを語ろう！」 「出産前」「就学前」「中学生まで」「18歳まで」の各期間の子育てについて、現状の課題を挙げ、将来どのようにしたら各時期の健全な子育てにつながるか、様々な視点で考え、意見を出し合いました。		第5回「東浦町の誰もがいきいき暮らせるまちを語ろう！」 「医療」「福祉」「健康」の各分野について、現状の課題を挙げ、将来どのようにしたら「誰もがいきいき暮らせるまち」につながるか意見を出し合いました。 (下記一覧注○：良いところ・今後活かそうなものなど ●：悪いところ・課題など)		第6回「東浦町のまちづくりの進め方を語ろう！」 協働のまちづくりとはどういうものか考え、協働のまちづくりを進めるために必要なことを分野に分けて話し合いました				
期間	現状はどうなっているか	将来どうなっていきたいか	分野	現状はどうなっているか	将来どうなっていきたいか (誰がどのように関わるか)	協働のまちづくりとは	必要なこと	
出産前	○ 婚活する場がない、少子化 ○ 出産前準備のクラスなどがない ○ 小児科、産婦人科がない ○ ママ友パパ友との交流の場がない ○ 母子手帳配布が平日の限定された日のみで不便 ○ 妊娠・出産の際の相談の場がない ○ 相談窓口が不明確 ○ 出産サポートプランの発信がない ○ 大人(周囲)の理解がない ○ 支援が身近に感じられない	▶ 企業が出会いの場を創出 ▶ 安心して産める施設制度(金銭)の充実 ▶ 町が、産婦人科の開院希望をPRする ▶ 広報、回覧板、SNSの活用、情報発信 ▶ 保健所でカウンセリング出来る様にする ▶ よろず地域コミュニティの相談所創設 ▶ 初妊婦、初産婦と経産婦が交流する場を定期的につくる ▶ 行政・地域でパパも育児参加できる企画 ▶ 空き家を利用した常設型カフェの設立 ▶ ベテランの活躍	医療	○ 子ども医療 15歳まで無料はよい ○ 個人医院が多いが地域で片寄り ● 総合病院がない ● 長寿医療センターに診察券が必要 ● 病院内の待ち時間が長い ● 高齢者が多く医療費が高い ● 車がないと病院にいけない ● 特定健診受診率が高い ● 産科・精神科の医院がない ● 子供医療の拡充 ● 医療についての情報がない	行政 ▶ 在宅医療、まちの保健所、医師の往診の充実 ▶ 近隣の市町の病院をつかえるように支援 ▶ 生活の中で出来る健康情報の発信 ▶ 子供出産に対する東浦町の実態を調査公表	○ 年齢や国籍、男女関係なく同じ目標を持つ ○ 近所で話し合い、協力する ○ 企業と町民公所、等が合体してできること ○ パートナー協力 ○ 行政と住民の役割分担 ○ それぞれの得意を生かす ○ 住民の主体的参加の意欲 ○ 行政と地域住民が1つの課題を考える ○ 住民に押しつけない ○ 住民のアイデアを活かす姿勢が行政に必要 ○ 行政ひとりよがりにならない ○ ボランティアの認識 ○ 自分に都合の悪いことでも排除しないこと ○ 公共の仕事を地域住民ともに出来る様にする ○ 防犯、防災等のテーマを決めて協働力を高める ○ 住民が地域の現状把握をする場を設ける ○ 自治会の進め方を理解 ○ 悲観的な考えにならない ○ 町と住民との話し合いの場 ○ 役場の職員がNPOで研修 ○ がんばってる活動を応援するようなシステムの拡充 ○ 住民が「協働」ということを理解していない ○ 失敗してもいいシステム ○ 意見を出しやすいまちづくり ○ コミュニティ情報発信 ○ 文化促進が協働につながる ○ 自分事として考える地域	<b>土地利用</b> ▶ 空家、空地の有効活用 ▶ 自治体から情報発信 ▶ 農業主が合体して協働で生産する(農協) ▶ 地権者の先進地視察会 ▶ 住民、業者、行政の話し合い ▶ 一人一人の意識や行動 ▶ ルール、枠を越えてみよう <b>産業振興</b> ▶ 町営ぶどう園 ▶ 農家の企業化協力 ▶ 農業専門学校の開校に協力 ▶ 工場+住宅地への税軽減 ▶ 高齢者による起業援助 ▶ イベントを自治会と共同で ▶ 空農地の借用情報を促す。 ▶ 地元小店舗での購入促進策 ▶ 多様性を応援、ワクワク感を創出する！ ▶ 地元と会社融合 <b>子育て・教育</b> ▶ Skype会議促進 ▶ 「子ども」は町全体の財産 ▶ 地域授業参観 ▶ IoT活用 積極的に情報発信 ▶ 2カ国語の話せる外国人の子どもは、社会の財産 ▶ 教育経験者の発掘と活用 ▶ 地域での勉強会など ▶ 2世代住宅の促進を図る ▶ 妊娠期~の相談できる場の周知と相互理解 <b>健康・福祉・医療</b> ▶ 健康への意識を高める ▶ 住民のアイデアを実現するように行政が資金、法的整備でバックアップする ▶ 学校の中での地域食堂 ▶ 障がい者の働き場所づくり ▶ 当事者を置き去りにしない ▶ 困りごと解決インフラ整備 <b>その他全体</b> ▶ みんなが主役 ▶ 町の農作物を使ったカフェ ▶ 東浦のために何が出来るか。 ▶ 困りごとの共有・発信 ▶ 住民が行政、地域自治会に問題点、気が付いた点を言える体勢にする	
	○ 地域で生き生きしている大人が少ない ○ 自立に向けて大人が示せる姿勢 ○ おせっかいな大人が少なくなった ○ 地域での子育て文化がなくなった ○ 各家庭へのバックアップが少ない ○ 歩道が悪くベビーカー歩きにくい ○ 乳児保育のある園に限られている ○ 公園、遊び場がない ○ 子育てについて話し合う場や時間が持てない ○ 子どもを預けられる場所がない ○ 子どもを預ける施設の時間が短い ○ 支援とニーズが合っていない ○ 子ども同士の交流がない	▶ ボランティアの充実、大人が積極的に活動する場を設ける ▶ 安全な歩道の整備 ▶ 保育園で乳児保育ができる環境作り ▶ 保育園児と地域の高齢者との交流機会 ▶ 保育園・保育士増加、保育園時間延長 ▶ 子育て情報発信広報 ▶ 地域で連携して手助け ▶ コミュニティ各地区で親子が集まって遊べるイベントを企画する ▶ 出産後の働き方キャリア復帰などの情報提供(出産を機に退職) ▶ 企業による働き方の改善、在宅で仕事の出来る環境づくり		福祉	○ 高齢者の方に対する制度が充実 ○ 身体・知的障がい者の施設が多い ○ NPO法人ががんばっている ● 保育園が遠く、預かり時間が短い ● 独居、ひきこもり高齢者増加 ● 働く世代が減り、税収が少ない。 ● 地域と繋がりをもたない方が多い ● バスが少ない ● 精神障がい者の社会資源が少ない ● 児童が相談できる場所がない ● 子どもと大人の交流が少ない ● 福祉への意識が低い ● 高齢者の入る福祉施設が順番待ち ● 園終了、学業終了後の支援がない			行政 ▶ 保育園の延長、保育士の充実 ▶ 空き屋を集会所として活用 ▶ うらら増便、高齢者無料化 ▶ 学校の中にお年寄りの憩いの場を併設 ▶ ドローン移動で通勤・通院 ▶ コミュニティモデル作り ▶ 健康SNSなど健康情報発信 住民 ▶ お助け隊をつくる ▶ シルバー人材の障がい者版 ▶ 精神障がい者への正しい理解 ▶ ロボットに介護してもらう ▶ 放課後クラブの充実をさせる
	○ 通学路が狭い、遠い、危険 ○ 学生の地域行事への参加が少ない ○ 教員が少ない ○ 子供が遊べる広場が近くにない ○ 学校で福祉を学ぶ機会がない ○ ネット犯罪増加 ○ 子ども食堂が石浜にある ○ 学力向上の取組みがない ○ 子どもの元気がない ○ 心の居場所がない ○ 地域でめんどろを見る人が減少 ○ 小学生・中学生の減少	▶ 教育のモデル地区の設置 ▶ 町による道路整備 ▶ コミュニティ活動、ボランティア活用 ▶ 自然に興味を持つような教育 ▶ あいさつの徹底 ▶ 家庭で地域交流の大切さを自覚させる ▶ 町・地域による居場所づくり・子ども食堂の継続支援 ▶ 大学と連携 ▶ 空教室利用を行政が支援 ▶ 小学生と高齢者との交流機会を増やす ▶ 小学生の学習サポートを地域で			健康			○ 健康体操が盛ん ○ いきいきマイレージが良い ○ 40才の住民は対象のがん検診を無料クーポンで受けられる ○ 赤ちゃんの健診回数が多い ○ 乳幼児健診がこまめにある ○ ウォーキングコースが整備 ○ 元気な高齢者が多い ● 高齢者のふれ合いの場所がない ● 健康プラザの利用補助が少ない ● 独居老人の健康管理 ● 健康度 町全体の目標値がない ● 介護を嫌がる人を気持ち良く受け入れる体制がない ● 健康について無関心な人が多い ● ランニングしたいが歩道がない ● 子供の健康づくりの場が少ない ● 認知症予防対策の充実が必要 ● 学校施設が活用されていない
○ 高校生が集まれる場所がない ○ 高校生になると医療費がかかる ○ 子どもが少ない ○ 中高生と地域の関わりが少ない ○ 学生の活躍の場が少ない ○ 中・高一貫教育システムがない	▶ 中高生の活動の場と施設をつくる ▶ 医療費の無償化を18才まで延長 ▶ 高校まで町内で教育できる寛容づくり ▶ 行政が大学の呼びこみ・設置への支援 ▶ 東浦高校との連携 ▶ 特別プログラム作成して発信							